



やどかり研究所



第 19 回 (2020 年度)

やどかり研究所報告・交流集会のご案内

日時 2021 年 **3** 月 **6** 日 (土) 10 時 30 分～15 時 30 分

開催方法 **オンライン開催**

主 催 公益社団法人やどかりの里 やどかり研究所

実践に生かす研究的思考と担い手づくり

社会福祉実践の現場で働く人たちにとって、研究的視点は欠かせません。実践・研修・研究の三位一体の活動は、変化するニーズに応え、1人1人の生き方を大切にする実践を生み出す土台でもあります。しかし、社会福祉の現場も市場化が進み、効率や競争優先の考え方が広がっています。「社会福祉」という言葉を死語にしないためにも、実践を検証する視点を自分たちの実践に位置づけていくことが大切ではないでしょうか。

今回の集会では、実践現場で研究的思考をどう位置付けていくのか、考える機会にしていききたいと企画しました。

(今回は会員による研究・活動報告の募集は実施しません)

参加費 やどかり研究所会員・やどかりの里メンバー・学生は、**1,000 円**
やどかり研究所の会員でない方は、**3,000 円**

参加の申し込み

- * インターネットで、参加のお申し込みをしていただきます。
裏面の「オンライン参加について」をご覧ください。
- * オンラインでの申し込み、参加が難しい方は、事務局までご連絡ください。
- * 参加の申し込みの締め切り日は、**2021年2月24日(水)**です。

参加費の支払いについて

- * 事前にお支払いいただきます。
裏面の「オンライン参加について-申し込み・ご入金について」をご覧ください。

お申込み・お問合せ **やどかり研究所事務局** (やどかり情報館 内)

TEL : 048-680-1891 FAX : 048-680-1894

E-mail : book@yadokarinosato.org

〒337-0026 埼玉県さいたま市見沼区染谷 1177-4

3月6日(土) プログラム

10:00～10:30 受付

10:30～10:40 開会 あいさつ

10:40～12:00

第1部 鼎談 やどかりの里の存在意義と研究活動が果たしてきたこと

やどかりの里は活動初期から調査研究活動を行ってきました。日々の実践を検証し、その質の向上のためには、研修・研究活動が必須であると考えてきたのです。やどかり研究所の基礎を築いた藤井達也さん、松田正己さんに研究活動の意義を語っていただき、実践で大切にしたい研究的視点について、実践者の立場で増田一世が語ります。

◇◇◇◇ 発言者のご紹介 ◇◇◇◇

藤井達也さん（泉地域精神保健福祉研究所 主任研究員）

1975年に卒業論文を書いていた時、長兄が発病、翌年大学院入学直後に次兄も発病。精神障害者家族としての困難の連続から、ごくあたりまえの生活実現に取り組んでいたやどかりの里に1983年に参加。主任研究員・常務理事等を経て、1990年秋に旧大宮市天沼から横浜へ引越。その後、淑徳短大等の教員。そして上智大学教員となり、2018年に退職。

松田正己さん（東京家政学院大学公衆衛生学教授）

東京大学医学部保健学科卒、同大学院医学系研究科博士課程修了（保健学博士）。大学院時代にWHOのPHC研究の過程で、「やどかりの里」の研究員となり、現在に至る（やどかり研究所共同代表等）。1980年代にタイ王立マヒドン大学、北イエメン国立結核研究所(JICA)を経て、(財)結核予防会結核研究所国際協力部にて結核とエイズの国際研修科長。米国ジョージタウン大学ケネディ倫理研究所・武見客員フェローの後、1997年静岡県立大学看護学部教授（地域看護学）。2010年に介護のため退職し、現職。日本健康福祉政策学会理事。

増田一世さん（公益社団法人やどかりの里理事長）

明治学院大学社会学部社会福祉学科卒、1978年やどかりの里研修生、翌年から職員としてグループ活動と出版活動に従事する。1997年にやどかり情報館館長、1999年、2000年にメンバーと職員の状態調査に取り組み、以後エンジュの弁当利用者、介護者の状態調査などに関わる。さいたま市のノーマライゼーション条例づくり（2009年）、内閣府障がい者制度改革推進会議総合福祉部会で骨格提言づくりに参画（2010年～11年）。現在日本障害フォーラム幹事、日本障害者協議会常務理事、日本健康福祉政策学会理事。

指定発言

坂本智代枝さん（大正大学社会共生学部社会福祉学科教授）

渡邊奏子さん（浦和区障害者生活支援センターやどかり代表）

12:00～13:00 休憩

13:00～14:20

第2部 研究・実践報告 実践に生かす研究的思考と担い手づくり

大学で教育・研究に従事する4人の研究者たちが、やどかりの里との関わりや実践と研究をどう展開してきているのか、これからの研究活動の方向性や担い手づくりについて考える機会にしたいと思っています。

報告① きょうだいとしての側面と精神保健福祉士への昇華 — SCAT を用いた分析による語りの海底の追究 —

<発表者>青木 聖久（日本福祉大学教授／博士（社会福祉学）／精神保健福祉士）

<要旨>

精神障害がある人の兄弟姉妹（以下、きょうだい）は、自らの人生の主人公として生きることが大切である。ところが、きょうだいは精神障害がある人との関係のなかで、これらの発想に蓋をしたり、あるいは想像すらできないことも少なくない。そのようななか、過去の様々な体験を精神保健福祉士になることによって昇華させ、きょうだいが、自己肯定感を覚えることがあろう。

そこで本研究では、きょうだいからのインタビューを実施し、その結果について、大谷尚が考案した SCAT；Steps for Coding and Theorization による分析をするものである。ちなみに、SCAT では大谷の言葉を借りれば、「研究参加者が思ってもいないが研究者が語りを分析して得た内容」まで迫ることを目指す。以上のことを踏まえ、本研究では、きょうだいが精神保健福祉士になることの意味や葛藤について探索することを目的としたい。

プロフィール

1965年、兵庫県淡路島生まれ。日本福祉大学社会福祉学部を卒業（1988年）後、精神保健福祉分野のソーシャルワーカーとして、精神科病院で約14年間勤務。その後、兵庫県内の小規模作業所の所長として、4年間勤務。2006年より現任校。その傍ら社会人学生として、2004年に京都府立大学大学院福祉社会学研究科修士課程修了、2012年に龍谷大学大学院社会学研究科博士後期課程修了。

やどかりの里とは、初めての単著『精神保健福祉士の魅力と可能性』（初版）を2006年に出版したり、社会人学生と共に視察の機会をいただく等、継続的に交流させてもらっている。

全国精神保健福祉会連合会（家族会）理事、日本精神保健福祉学会理事。2015年2月から2016年2月まで、厚生労働省年金局「精神・知的障害に係る障害年金の認定の地域差に関する専門家検討会」の委員、2015年4月から2016年3月まで、兵庫県健康福祉部「兵庫県精神保健医療体制検討委員会」の委員、2019年11月～、愛知県一宮市「一宮市障害者基本計画等策定委員会」委員（委員長）等。

報告② 「実習前評価システム（短期大学版）」の考案とその展開

－対人援助職を目指す短期大学生の声をきき、改良を重ねて－

＜発表者＞阿部 好恵（帯広大谷短期大学 社会福祉科准教授）

＜要旨＞

昨今、社会福祉士養成においては、臨床参加型の実習の重視、実習前の学生の実習生としての適格性が求められるようになった。このような状況を鑑み、2008（平成20）年から全国に先駆け北海道内の養成校では、医師、看護師や理学療法士等の養成において既に導入されていた「実習前評価システム」を施行している。当時本学は、道内で唯一社会福祉士養成を行う短期大学であったことから、4年制大学のカリキュラムに則したこのシステムを踏襲し、2年間の養成にも対応可能な「実習前評価システム（短期大学版）」を考案した。2014年度末の社会福祉士養成課程の廃止後も他短期大学にてこのシステムを施行し、スクリーニングとしてではなく学生のモチベーションの維持や自己学習を促進させるシステムとして改良を重ねてきた。

社会福祉の担い手を育てるために、地方の短期大学は何ができるのか？ 学生の声をきき、継続してきたこの取り組みについて報告する。

プロフィール

社会福祉に関心を持っていた大学生の頃に、先輩と一緒にやどかりの里を訪れ心が揺さぶられる。その後、社会福祉を学ぼうと決意し、北海道医療大学大学院に進学。やどかり情報館に寝泊まりしながら当事者の方々のお話を聴かせて頂き修士論文を書く。現在は、幼稚園教諭・保育士養成に携わり、ゼミナールでは、学生と地域の障がい者支援施設とがコラボレーションし、アールブリュット作品を活かした巨大絵本づくり、読み聞かせ会等を行う。『響き合う街で』や「機関紙やどかり」を読み、いつもやどかりの里からエネルギーを頂いております。

報告③ ソーシャルワークにおける地域・民族固有の知と実践の探求

－やどかりの里との出会いを経て－

＜発表者＞東田 全央（青森県立保健大学／アジア国際社会福祉研究所）

＜要旨＞

地域・民族固有の知と実践を踏まえた国際ソーシャルワークのあり方についての研究概要と、やどかりの里との接点について報告する。アジア諸国でもソーシャルワーク教育が発展してきているが、その教育を受けた人材が現場で活躍する機会は限られている。他方、行政や非政府組織では、専門職教育を受けていないものの、ソーシャルワーカーとしてみなせるような人材が活動している場合も多い。その活動と機能から、西洋生まれのソーシャルワークと相違がある実践の知を明らかにし、現地の教育や実践へ還元する取り組みを目指している。以上のことは、やどかりの里が目の前の人々との取り組みから活動をつくり、言語化してきたことと重なる部分がある。社会開発的で現地に根ざした取り組みは、福祉サービスが新自由主義や過度の制度化による影響にさらされている日本に対しても様々な示唆をもたらすものと考えている。

プロフィール

兵庫県西宮市生まれ。社会福祉士・精神保健福祉士。博士（人間科学，大阪大学）。やどかりの里職員（2006～11年），青年海外協力隊・ソーシャルワーカーとしてスリランカ赴任（2013～15年），JICA 長期専門家としてモンゴル国赴任（2018～2020）等を経て，2020年7月より現職。やどかり研究所会員。

報告④ 現場実践の中で研究的視点が持つ「臨床力」とは何か

<発表者> 結城 俊哉（立教大学コミュニティ福祉学部）

<要旨>

現場の担い手が実践を担当，研究者は研究活動を担当すると分担できると話は，簡単でわかり易い。しかし，多くの研究者が書く研究論文を読むと，現場実践の評価・問題点の指摘・課題の提示が際限なく続く。現場実践の担い手が，それらを読んで理解できずに憂鬱にはなっても元気になることがほとんど無い。精神科臨床（病院）で働いていた頃の僕は，「現場は，そんなこと解っているよ！ 給料は安いし，不規則勤務で有給休暇も取れない！ この現実をどうしたら良いの。こんな偉そうな研究は現場の力に成らないよ」と思ってきました。そんな僕が，30年前にやどかりの里の谷中輝雄さん（故人）と出会い，自分が縛られていた視点（医療モデル）から生活モデルへ。そして，今回，ケアの担い手に必要な研究的視点として「臨床力」の意味を問い直してきた個人的な経験を報告したいと思います。

プロフィール

最初は，精神科救急の臨床に看護師として関わり，その後，家族会，地域作業所作り，家族会の相談員・調査研究員，やどかりの里との出会いを経て，2014年から現在の職場に至る。その間，職場を転々としたため引越は13回程経験しています。

14：20～14：30 休憩

14：30～15：25 全体討論

15：25～15：30 閉会のあいさつ

参考文献

『響き合う街で』93号 全面特集 やどかりの里の50年 本体価格1,200円＋税

精神障害のある人たちの「ごく当たり前の生活」を求めて活動を開始したやどかりの里（埼玉県さいたま市）が，活動50周年を迎えました。本誌は「やどかりの里の50年」を追った特集号です。

<主な目次>

やどかりの里創設50周年に寄せて／1. 活動理念の形成／2. 地域の人たちとの関係の変遷／3. 人づくり 組織づくり／4. やどかりの里と法・制度／5. 座談会／やどかりの里と私

ご注文は，やどかり出版まで（ホームページもしくは048-680-1891）

オンライン参加について – 申し込み・ご入金について –

- * 事前に参加のお申し込み・ご入金をお願いいたします。
- * 参加の申し込みは、「やどかり出版」のホームページで受付しています。

やどかり出版 <https://book.yadokarinosato.org/>



- * やどかり出版のホームページの申し込みフォームからアクセスしてください。
 - やどかり研究所報告・交流集会の申し込み
 - 会員（メンバー・学生）か非会員を選ぶ
 - 参加人数（数量）を選びカートに入れる → ゲストとして購入（左下）
 - 申し込みフォーム（購入者情報）に、お名前、参加チケットを受け取れる住所、当日連絡のつく電話番号、メールアドレス、備考欄に所属を記入してください。
 - 決済方法をお選びください。クレジットカード、コンビニ決済、銀行振り込み等からお選びいただけます。
 - 次へ進んで、お申し込みを完了してください。

* 入金の確認ができましたら、やどかり研究所事務局から、ご記入の住所に「参加チケット」「領収書」「配布資料」を郵送いたします。同時に、発送通知のメールもお送りいたします。ご確認をお願いいたします。

- オンラインは zoom を使用します。

参加チケットに、「ミーティング ID、パスコード」を記載しますのでこちらからご参加ください。

※ 個人情報は、上記の目的以外には使用いたしません

ご参加を楽しみにお待ちしております。よろしくお願いたします

やどかり研究所 入会のご案内

会費 年間 12,000 円（4 月から翌年 3 月まで）分割での納入も可能です。

※会費には機関紙「やどかり」購読料を含みます。

会員の特典

- ・会員には、さまざまな研究会や学習会のご案内をお届けし、参加費の割引を用意します。
- ・やどかり出版の発行する「響き合う街で」（年 4 回発行）、やどかりの里が毎月発行する機関紙「やどかり」、年 1 回発行される所報「やどかり」を送付します。
- ・やどかり出版の発行する出版物を 2 割引で購入できます。（出張販売の折には対応できません）
- ・会員が「響き合う街で」に総説・解説・研究・実践報告等の寄稿をした場合、優先的に掲載する権利を保有します。